

育課長は、歯科教育審議会が新学制では2ヵ年の大学レベルのプレデンタル課程を修了した者を入学させると決めたことを報告した。

第36回総会では、医・歯学部が他学部より長いことに対する批判，また歯学部を医学部と同じ2年にすることに批判がなされている。最終的に5年か6年かで採決となった。採決は賛否同数

で、委員長の安倍が6年に賛成を宣言して可決された。

本発表は以下に収載されている。佐久間 泰司：戦後なぜ歯学部は6年制になれたか，日本歯科歴史学会々誌33巻2号 Page 165-179 (2019.09)

(令和元年12月6史学会合同例会)

ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点とした 看護教育の歴史

佐々木秀美，加藤 重子，岡田 京子

【研究目的】

カール・ヒルティ (Carl Hilty 1833-1909) は、絶え間ない有益な活動の状態こそが、この地上で許される最上の幸福な状態と述べた (ヒルティ, 2014)。つまり、福祉の意味が幸福という意味であるとしたら、幸福の意味が日常生活をよりよく生きること、よく生きる為には健康であることを意味する。ゆえに幸福であるという事は健康であることということができる。つまり、看護師が実践する健康問題改善に向けた活動も福祉活動である。

ドイツにおけるフリードナー牧師のディアコニッセ (Deaconess) 養成は、女性の聖務として、あるいは個人・慈善団体としての地域福祉への貢献であり、彼によって訓練されたディアコニッセ達は同学園の“母の家”を拠点として求められる場所へ出向、社会貢献した。1860年に看護教育を開始したフローレンス・ナイチンゲール (Florence Nightingale, 1820-1910) は、1850年と1851年の2回に渡ってカイゼルスヴェルト学園で短期教育を受けた。同学園での教育体験は、女性が社会で有用であることの正当性を保証する大きな根拠となり、看護教育に向けた取り組みの原点になったと考えられた。そして、ディアコニッセ養成と看護教育は、共に日本に導入された。そこで、本報告では、日本に導入されたドイツでのディアコニッセ

養成と看護教育の歴史を検証、地域福祉の側面から若干の検討を加えて報告する。

【研究方法】

1. ドイツにおけるディアコニッセ養成と日本におけるディアコニッセ養成の歴史
2. ナイチンゲールの看護教育システムとその教育を受け入れた日本の看護教育の歴史

【倫理的配慮】

古い文献・資料の閲覧・コピーについては著作権侵害にならないよう関係者の了解を得た。

【研究結果及び考察】

1. ドイツにおけるディアコニッセ養成と日本におけるディアコニッセ養成の歴史の変遷
プロテスタントの牧師であったテオドール・フリードナー (Pastor Theodor Fliedner 1800-1864) によって1833年に設立されたカイゼルスヴェルト学園は、病院、更生所と教護院、師範学校、孤児院・幼児学校を付設していた。学園の機能はほとんど、プロテスタントの女性の聖務としての教区ディアコニッセ (Deaconess) の養成である。その養成は女性たちを看護師や教育者として教えられるようにすることであった。養成されたディアコニッセは同学園の“母の家”を拠点として求め

られる場所へ出向，社会貢献した。そして，戦後，ドイツから訪れたポール・ゲルハルト・メーラー博士（Paul Gerhardt Möller 1903–1998）によって，ディアコニッセの日本派遣計画がなされ，1953年，5名のディアコニッセ達が来日した。1957年，浜松聖隷ディアコニー学校が設置され，ディアコニッセ養成が開始された。日本に派遣されたディアコニッセ達は，その教育と高齢者福祉施設の設立に貢献した（蛭名賢造，1999）。

2. ナイチンゲールの看護教育システムとその教育を受け入れた日本の看護教育の歴史

カイゼルスヴェルト学園で短期教育を受けたナイチンゲールは，どのような種類の不足に対しても，神が満ちし給う恩恵をいつでも見つけることができる。また，彼女らが教会の“召使い”として奉仕に携わっていたのをみる時，女性にも神に与えられた役割がある（真壁伍朗，1982）と述べた。カイゼルスヴェルト学園での教育を受けたナイチンゲールは，自身が有する女性に対する高邁な感情，すなわち，女性が社会で有用であることの正当性を保証する大きな根拠になり，後の看護教育思想の原点になったと考えられた。

女性の専門職を創設し，創設された専門職者が，病院看護の質の向上，国民や兵士の体力向上に貢献でき，さらに公衆衛生の普及向上にも貢献できるという明快な目的を導き出した。その目的達成にはより専門性の高い教育を女性達に準備する必要があった。そこで，ナイチンゲールは，看護師の養成機関を病院付属にし，“見習い制度”を基本とした看護教育を創始した。見習い制度による教育が効果的に作用するには，まず良質の環境が準備される必要があった。人的にも良い教育環境の中で見習い生達が経験し，感化され，更に激しく訓練される必要があった。ナイチンゲールは見習い制度の教育作用を十分に認識し，意図的に教育計画をした。ナイチンゲール方式と呼ばれたその教育の特徴は①マトロン（Matron）と呼ばれる看護総監督の存在，②寄宿舎におけるホーム・シスターによる教育，③医師による基礎専門教育，④病棟シスターによる実践教育（小玉香津子，1978）である。

フリードナー牧師とナイチンゲールはともに，女性問題に対する取り組みで，女性を尊重するということが，女性の能力を無駄にしないということ，女性を地域社会に貢献させるという取り組みでは一致したが，教育方法とその体系的な施策では大きな違いがあった。ナイチンゲールは，当時，主流の科学論を参考にしつつ，看護の専門職者として女性を育成することによって，女性の経済的・精神的自立・社会的自立を推進することであった。そして，ナイチンゲールが推進した看護教育は，ナイチンゲール方式と呼ばれ，明治時代に日本に導入され，病院看護の質的向上に貢献し，人々の健康問題改善・維持・向上に多大な貢献をした。ゆえに，ドイツにおけるフリードナー牧師のディアコニッセ養成は，“母の家”方式と呼ばれ，女性の慈善活動における社会的役割の位置づけと有用性を起点とする看護教育に発展し，医療福祉ニーズのコミュニティアプローチや必要専門職の教育の基盤，女性の社会的役割拡大への貢献など“看護・福祉・教育”の協働による地域福祉の礎を築いたと言っても過言でない。

【参考文献】

- 1) カール・ヒルティ著，草間平作他訳：幸福論（第一部），p.16，岩波文庫，2014年。
- 2) Florence Nightingale (1851): The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses, under the Direction of the Rev, (湯模ます他訳：ナイチンゲール著作集第一巻，カイゼルスヴェルト学園によせて，pp.3-4，現代社，1983年。)
- 3) 蛭名賢造著：聖隷福祉事業団の源流—浜松バンドの人々—，新評論，1999年。
- 4) 真壁伍朗著：カイゼルスヴェルト訪問記〈2〉，総合看護，p.66，1982年。
- 5) Lucy Ridgely Seymer, A General History of Nursing, (小玉香津子訳：看護の歴史，医学書院，1978年。)
- 6) Catherine Winkworth, Life of Pastor Fliedner (1867), Longmans, Green, and Co.2009.
- 7) 佐々木秀美著：歴史に見るわが国の看護教育—その光と影—，青山社，2005年。
- 8) Florence Nightingale (1851): The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses, under the Direction of the Rev, (湯模ます他訳：ナイチンゲール著作集第一巻，カイゼルスヴェルト学園によせて，pp.3-4，現代社，1983年。)

- 9) 佐々木秀美著：ナイチンゲールの看護・福祉思想—「カイゼルスウェルト学園によせて」を手掛かりに、看護学統合研究 Vol.18, No.2, pp.14-34, 2017年。
10) 佐々木秀美著：ドイツにおけるディアコニッセ養

成がナイチンゲールに与えた影響について、看護学統合研究 Vol.1, No.1, pp.10-21, 2017年。
(令和元年12月六史学会合同例会)

野中家蔵書中の浅田宗伯関係書籍について

青木 歳幸

本稿は、2019年12月21日の六史学会での報告要旨である。史料所蔵者の野中家は、初代源兵衛が寛永3年(1626)に薬種業を創業し、現在はウサイエン製薬会社として製薬業を続けている老舗である。

佐賀大学地域学歴史文化研究センターでは、平成25年(2013)10月17日から、野中烏犀圓文庫の古医書・国書・古文書調査を開始し、文部科学省科研費B「佐賀藩薬種商・野中家資料の総合的研究」(2016~2019)に採択され、平成31年に仮目録をまとめ、報告書を出版した。

科研費の調査により、野中烏犀圓文庫のおよその蔵書数が把握できた。文書1271点、国書763部、医書1279部の計3313点を目録化でき、現在補充調査と書画類の調査を進めている。本報告はその調査で得た知見の一つである。

浅田宗伯(1815~1894)は、信濃国筑摩郡北栗林村(現松本市島立)出身で、幕末・明治にかけての代表的な漢方医である。慶応2年(1866)、徳川將軍家の典医となり、維新後も天璋院篤姫らを診療した。その明治3年(1870)の診察記録『御殿診籍』が野中家に現存している。それが③の診療記録である。

浅田宗伯関係書籍研究は、矢数道明氏の研究(『近世漢方医学史』379頁、東京・名著出版、1982)があり、真柳誠「浅田宗伯の著述とその所在」(『漢方の臨床』37巻9号1055-1062頁、1990年9月、2018/03/09修補)が、網羅的で道しるべとなる。

今回の調査で、野中家蔵書のなかから以下の書籍を確認しえた。番号は所蔵箱番号。

- ①, 30-3-1と3-2, 医心方, 乾29冊・坤20冊, 天保10年(1839)から天保13年にかけての宗伯筆写本。
- ②, 23-02, 傷寒弁術, 1冊, 弘化2年(1845)。刊本。
- ③, 東3-1, 御殿診籍, 2冊, 浅田宗伯, 明治3年(1870), 帙題簽に「浅田宗伯自筆控」とある。写本
- ④, 13-18, 古方薬議再稿, 2冊, 浅田宗伯, 浅田宗伯自筆稿本, 写本。
- ⑤, 45-9, 古方薬議・古方薬議續録全, 6巻6冊, 浅田宗伯(自筆本)
- ⑥, 6-4, 皇國名医伝, 3巻3冊, 浅田宗伯, 明治6年(1873), 刊本。
- ⑦, 6-5, 皇國名医伝前編, 3巻3冊, 浅田宗伯, 明治6年(1873), 刊本。
- ⑧, 23-26, 医学智環, 1冊, 浅田宗伯, 明治11年(1878), 刊本。
- ⑨, 59-7, 先哲醫話, 2巻2冊, 信濃 浅田惟常著 松山挺剛校, 明治13年(1881)8月, 刊本。
- ⑩, 23-7, 傷寒翼方, 1冊, 浅田栗園著, 明治14年(1881), 刊本。
- ⑪, 84-2, 牛渚漫録元, 1冊, 栗園先生(浅田宗伯), 明治25年(1892), 刊本。
- ⑫, 32-8, 後芻言, 1冊, 浅田宗伯, 明治28年(1895), 刊本。
- ⑬, 33-11, 浅田宗伯処方全集, 2冊, 世界文庫刊本会, 昭和3年世界文庫刊本会刊(1928)

①の『医心方』は、乾29冊、坤20冊あり、浅田宗伯が、仁和寺本をもとに、天保10年(1839)から13年にかけて筆写したものである。例えば